

会員の皆様からの声「古文書愛好会の活動とお誘い」2024.10

会として発足して数年を経過、メンバーは入れ替わるものの概ね 5~6人が月に2日程度顔を合わせて、郷土博物館から提供して頂く忍藩の古文書などを中心に、読み下しにチャレンジしています。

全員が江戸時代の文書を読むことに興味はあるものの、特別な指導を受けたことも無いので、実力はドングリの背比べ状態。

長い文章の中で読める文字を探す、その文書が何を言いたいものなのかを感じる、その上で前後の文字から読めなかった部分の文字を推理する、篇や旁わきなどに着目して文字を一応特定し、辞書を引いて推理が正しいか否かを確認する、見当違いと判ったら改めて推理しなおす…を全員で寄り寄り話し合い、知恵を出し合いながら手探りで読み進んでいくというのが活動の実態です。それでも、読めた時の満足感、徐々に昔の文字を覚える手応え感、一つの文章を読み終えて印刷物に仕上がった時の充実感、もちろん仲間との交流の喜びにはなかなか得難いものがあります。

今年から、教材となる古文書自体を地域に関係の深いショートストーリーに変更したこともあり、全くの初心者でも何の心配も無く、いつからでも始



活動風景(2024.3を使用)

めることができます。ボケ防止には絶大な効果(?)があります。

いずれも気の置けない心優しいオヤジばかりなので、どうぞあまり気負わずに肩の力を抜いて、是非ともメンバーにご参加下さいませ。 文：奥田 匠